



魔法の文学館
(江戸川区角野栄子児童文学館)



江戸川区
英語教育プログラム

Edogawa English Program

実践編



江戸川区教育委員会

Edogawa English Programの発行に寄せて

教育長 内野 雅晶

江戸川区では、躊躇なく英語を話す児童・生徒の育成に向け、小学校低学年から英語に親しみ学べるよう、小・中学校9年間を見通した英語教育の充実に取り組んでいます。

小・中学校が共通の方向性を持ち、学びの連続性を意識した授業実践を積み重ねていくことが、児童・生徒の英語力を育てる大きな力となります。

そこで、江戸川区英語教育プログラム「理論編」と共にこの「実践編」を作成しました。

本プログラム「実践編」では、はじめて英語を指導する教員でも安心して授業に取り組めるよう、指導のポイントや学習内容、授業で活用できる資料を掲載しています。

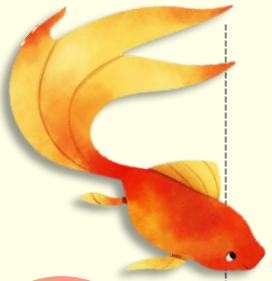
本プログラムが、先生方の日々の授業づくりを支えるとともに江戸川区の英語教育を充実させ、教室で「英語が楽しい」「英語をもっと話したい」という児童・生徒の声が響き、失敗を恐れることなく自信をもって英語でやり取りし、世界とつながる児童・生徒の姿がみられることを願っています。



令和8年3月31日



EDOGAWA ENGLISH ROADMAP



English Day ※

年1回【小1～中3】

※ 土曜授業のうち1回、児童・生徒が英語で伝え合う教育活動を実施する日

年間
10時間



ALT派遣【小1～小2】



TGG【小4】※

※ Tokyo Global Gateway (東京グローバルゲートウェイ)

年間
35時間



ALT派遣【小3～中3】



小学
体験

Start!

江戸川区が
目指す
児童
及び
生徒の姿

- 英語の音やリズムに親しみ、外国語を「楽しい」と感じる
- 身近な語句を聞いたり真似たりする

- 自分の考えや気持ちを動作を交えて伝え合う
- 身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして慣れ親しみ、伝え合う

小1

小2

小3

小4



江戸川区外国語(活動)・英語における目標

躊躇なく英語を話す児童・生徒の育成



小中連携

※Edogawa English Speaking Action (イーサ) by 江戸川区教育委員会 学力向上プロジェクトチーム

毎学期
25分実施

365日
実施可能



EESA ※
生徒用 教師用



オンライン英会話【中2】



AI英会話アプリ【中2】

英語体験イベント Edogawa English World



小学生英語イベント



中学生英語体験イベント

江戸川区学力調査
全国学力・学習状況等調査
GTEC
CEFR A1相当以上の英語力
区独自 アンケート調査



成果指標

※Common European Framework of Reference for Languages (ヨーロッパ言語共通参照枠)

ESAT-J ※

Year 1

Year 2

Year 3

※ 東京都中学校英語スピーキングテスト

- 自分の考えや気持ちを簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる
- 目的・場面・状況に応じて、伝える表現や内容を工夫してコミュニケーションを行うことができる

- いろいろな言語や文化について学び、相手に配慮しながら関わることができる
- 身近なことやニュースなどを聞いたり読んだりして、感じたことを相手に伝えるように工夫しながら、即興的に話すことができる

小5

小6

中1

中2

中3

4技能5領域別 活動事例



聞くこと

Listening

小学校
低学年

- ・英単語の歌やチャンツのリズムに合わせて、手拍子やダンスをする。
- ・ジェスチャー付きの簡単な英語の指示を聞いて動く。
- ・簡単な英語の絵本の読み聞かせを聞いて楽しむ。

小学校
中学年

- ・色や動物の名前など、身近な英語のチャンツを聞いて真似る。
- ・ALTや教師の好きなものや欲しいものに関するやり取りに興味をもって聞く。
- ・“K”という読み方が発音されるのを聞いて、その文字を選ぶ。
- ・簡単な英語の絵本の読み聞かせを聞いて、内容を想像する。

小学校
高学年

- ・歌やチャンツを聞いて、表現に丸ごと慣れ親しむ。
- ・友達や教師の誕生日やできることを聞き取る。
- ・ALTの日常生活の話聞いて、語句や表現を確認する。
- ・まとまりのある話を聞いて概要を捉える。

中学校

- ・対話文や説明文を聞いて、「誰が、どこで、何をした」などの必要な情報を捉える。
- ・複数人の意見を聞いて、誰が賛成で誰が反対か、その理由は何かを聞き取る。



読むこと

Reading

小学校
低学年



【読むことの準備期】

絵本などから、自然に文字に触れる

小学校
中学年



小学校
高学年

- ・Aの文字を見て、/ei/の名称の読み方を発音する。
- ・聞いたり話したりして十分に慣れ親しんだ表現を声に出して読む。

中学校

- ・物語を読み、登場人物の行動を時系列に並び替える。
- ・環境問題などの記事を読み、事実と筆者の意見を読み取る。

話すこと

やり取り・発表

Speaking

小学校低学年

- ・英語であいさつをし合う。
- ・自分の好きな色や果物のカードを“Pink!” “Apple!”と掲げて見せる。

小学校中学年

【やり取り】

- ・友達と好きなものや欲しいものを伝え合う。

【発表】

- ・自分の好きなものについて、実物を見せたり、動作を交えたりしながら、紹介する。

小学校高学年

【やり取り】

- ・友達と誕生日やできることを伝え合う。

【発表】

- ・夏休みの思い出などについて、写真や絵を見せながら発表する。

中学校

【やり取り】

- ・「夏派か冬派か」などのトピックについて、理由を添えて考えを述べたり、相手に聞き返したりしながら対話する。

【発表】

- ・自分の将来の夢について、その理由や自分の好きなことと関連させて、発表する。

書くこと

Writing

小学校低学年



【書くことの準備期】

アルファベットの形に触れ、楽しむ

小学校中学年



小学校高学年

- ・色やスポーツの名前を、四本線を意識して丁寧に書き写す。
- ・友達の名前やALTの名前の綴り方を聞いて、大文字や小文字で書く。
- ・手本を見ながら、自分の名前、誕生日、好きな教科をプロフィールカードに記入する。

中学校

- ・週末の出来事などについて、3文以上の日記を書く。
- ・日本への旅行客に向けて、地域の魅力を紹介する記事やメールを書く。

【小学校1年～2年】 1単位時間における4ステップ

1

きもちをつくる

元気に英語を楽しむ準備をしよう!

《主な活動》

ゴールの確認

歌を歌う



2

きくまねる

単語・表現をたっぷり聞こう!

《主な活動》

言い方の発見

読み聞かせ

英語の音やリズムに反応



3

あらわす

遊びの中で英語をたくさん言おう!

《主な活動》

英語遊び

教師とのやりとり



4

ふりかえる

「できた」「楽しかった」ことを振り返ろう!

【小学校3年～4年】単元における4ステップ

1

つかむ

単元のめあてを考えよう!

《主な活動》

ゴールの確認

映像教材 視聴



2

きづく

単語・表現を理解しよう!

《主な活動》

音声の聞き取り

言い方の発見

教師とのやりとり



3

あらわす

自分の考えや気持ちを伝え合おう!

《主な活動》

ペアワーク

グループワーク



4

ふりかえる

「できた」「分かった」「楽しかった」
ことを振り返ろう!

《主な活動》

感想交流



【小学校5年～6年】単元における4ステップ

1

つかむ

単元のめあてを考えよう!

《主な活動》

ゴールの確認

映像教材 視聴



2

きづく

単語・表現を理解しよう!

《主な活動》

音声の聞き取り

言い方の発見

教師とのやり取り



3

あらわす

単元のゴールに沿って
自分の考えや気持ちを伝え合おう!

目的・場面・状況を設定した言語活動

《主な活動》

ペアワーク

グループワーク

プレゼンテーション



4

ふりかえる

学習した内容を振り返ろう!

《主な活動》

読む・書く

自己評価



【中学校1年～3年】 単元における4ステップ

1

つかむ

単元のゴールを共有し、見通しをもつ

《主な活動》

ゴールの確認

写真・映像視聴



2

きづく

教科書から新出単語・使える表現にきづく

言語活動をしながら理解を深める

《主な活動》

教師・友人との
やり取り

内容理解に
つながる音読

AI・ICTの活用



3

あらわす

単元のゴールに沿って
自分の考えや気持ちを伝え合う

目的・場面・状況を設定した言語活動

《主な活動》

即興的なやりとり

リテリング

プレゼンテーション

スピーチ

インタビュー



4

ふりかえる

単元で学習した内容を振り返る

学習のまとめと、次への目標設定

《主な活動》

自己・相互評価

ALTの
フィードバック



授業デザイン 1 単位時間の流し方

小学1～2年

コミュニケーションを図る素地となる感性を育成する。

活動	児童の学習内容(例)	指導のポイント		
あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく元気に挨拶をする。 ・日付や曜日についてやり取りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師自ら英語を楽しむ気持ちで、児童に接しましょう。 		
歌	<ul style="list-style-type: none"> ・メインの活動に関連する歌を歌う。 ※右ページ【ソングリスト】より選択可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し表現が多い歌や体を動かしながら無理なく歌えるものを選びましょう。 		
展 開	<p>① 同じ学習トピックを学期内で繰り返し実施</p> <p>1学期に3回、2学期に4回、3学期に3回程度ALTとの英語を使った活動を実施。 学期内で繰り返し同じトピックを扱うことで少しずつ内容に慣れるようにしていく。</p> <p>～学習トピック(例)～</p>			
		1学期	2学期	3学期
	テーマ	なかよくなるう	すきなものをつたえあおう	いろいろなものをかぞえよう
	内容	挨拶、気分、名前、アクション、体の部位など	色、果物、形、動物など	数、野菜、動物、形、食べ物、身の回りの物など
<p>② 1単位時間にメインとなる活動を2種類程度行う</p> <p>児童が集中して活動に取り組めるように、1つの活動は5～10分程度にするとよい。 右ページ【アクティビティリスト】より児童の実態に合ったアクティビティを選択することが可能。</p>				
絵本	<ul style="list-style-type: none"> ・メインの活動に関連する絵本の読み聞かせを行う。 ※右ページ【絵本リスト】より選択可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティで使用した単語を再び使用できるような絵本を選択しましょう。 		
ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> ・「できた」、「分かった」、「楽しかった」ことについて振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の活動を褒めましょう。 		
あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・元気にあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次の授業に落ち着いて臨めるように、児童を落ち着かせた状態であいさつを行いましょう。 		

ソングリスト

曲名	テーマ	曲名	テーマ
①Hello Song	挨拶・気分	⑥Walking Walking	アクション
②Seven Steps	数	⑦The Wheels on the Bus	乗り物・擬音
③Head, Shoulders, Knees and Toes	体の部位	⑧Rain, Rain, Go Away	天気・家族
④Old MacDonald Had a Farm	動物	⑨Hokey Pokey	体の部位・右左
⑤What do you have?	果物	⑩Ten Fat Sausages	数・擬音

アクティビティリスト

アクティビティ	活動内容
①タッチングゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・“Please touch …” に続けて言われた体の部位をタッチする。 ・“Let’s find …” に続けて言われた色を聞き、教室内の様々な色をタッチする。
②クラップ&カウントゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が言った数に合わせて手をたたく。 ・教師が手をたたいた数を聞いて、英語で言う。
③〇〇バスケット	<ul style="list-style-type: none"> ・果物の名前を聞いて反応する。(果物以外の単語を使用してもOK) ・くだものの模型を使って、色や形などのヒントから何かを当てる。
④キーワードゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・2人の間に消しゴムを置く。教師が指定した単語(例:Apple)が出た時だけ、素早く消しゴムを取る。
⑤ジェスチャークイズ	<ul style="list-style-type: none"> ・前に出た児童が動物などのまねをする。周りは“Are you a (monkey)?”と聞き、当たっていたら“Yes!”と答える。
⑥ビンゴゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・3×3や5×5のマスに絵を配置し、聞き取った単語に印をつける。1列揃ったら“BINGO!”と叫び、2つめ、3つめのビンゴが揃うように続ける。
⑦マッチングゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・裏返したカードを2枚めくり、同じ絵なら獲得できる。めくる際に必ず英語で単語を言い、発話と記憶をセットで行う。
⑧サイモンセズ	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が“Simon says, touch your head!”と言ったら動く。単に“Touch your head!”と言った時に動いたらアウトとなる。
⑨ミッシングゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板に数枚のカードを貼り、児童に目を閉じさせる。その間に1枚隠し、目を開けさせ、“What’s missing?”と聞き、「何がないか」を当てさせる。

絵本リスト

「タイトル」 / 作者 / (出版社)	テーマ
①「From Head To Toe」 エリック・カール作 (HarperCollins)	体の部位、アクション
②「Very Hungry Caterpillar」 エリック・カール作 (Philomel Books)	数、曜日、食べ物
③「Dear Zoo」 ロッド・キャンベル作 (Macmillan Children’s Books)	動物、形容詞
④「Go Away, Big Green Monster!」 エド・エンバリー作 (LB Kids)	顔の部位、色、感情
⑤「Today is Monday」 エリック・カール作 (Philomel Books)	曜日、食べ物
⑥「Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?」 ビル・マーチン作 (Henry Holt)	色、動物
⑦「Freight Train」 ドナルド・クルーズ作 (Greenwillow Books)	色、乗り物
⑧「Goodnight Moon」 マーガレット・ワイズ・ブラウン作 (HarperCollins)	身の回りの物
⑨「Five Little Monkeys Jumping on the Bed」 アイリーン・クリストロウ作 (Clarion Books)	数、アクション

1単元の組み立て方

小学校
中学年

コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。

指導のポイント	児童の姿
① つかむ 映像やクイズを通して単元のトピックに興味をもち、「話してみたい!」という素直な好奇心をもつ。	
「友達の好きなものを知りたい!」「クラスの友達に自分のお気に入り伝えたい!」といった、身近でワクワクするゴールを設定する。	デジタル教材で世界の様子や多様な生活文化を知り、「えっ、今寝てるの!?!」「これ何ていう食べ物?」と驚き、活動への見通しをもっている。
② きづく 映像資料ややり取りから、表現の意味や言い方に気付く。	
日本語との違いや、英語特有の音、リズム、ジェスチャー、世界の暮らしの面白さに直感的に気付けるようにする。	チャンツのリズムに合わせて時刻を言ったり、映像から「Breakfast Time」などの表現を推測したりして、日本語との音や文化の違いを楽しんでいる。
③ あらわす 学習した表現を使って自分の好きなことや気持ちを友達と伝え合い、英語でのコミュニケーションを楽しむ。	
正しさよりも「声の大きさ」「ジェスチャー」「笑顔」など、伝えようとする態度を重視し、短い定型句 (I like... 等) の繰り返しで自信を付けさせる。	友達とペアになり、「I like Snack Time.」、「Wow. It's nice.」などと自分の好きなものを伝えたり、友達の答えに共感したりしている。
④ ふりかえる 活動を通して「わかったこと」や「友達の新しい一面」を確認し、言葉を通じた繋がりに気づく。	
「言葉は仲良くなるためにある」という実感を振り返らせ、5年生(高学年)の学習へ向けた期待感を高める。	「友達の意外な一面を知ることができて嬉しかった」「次はもっと大きな声で言いたい」と、自分や友達の変容を前向きに捉えている。

1 単位時間の構成（例）

活動	児童の学習内容(例)	指導のポイント
あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく元気にあいさつをする。 ・日付や曜日についてやり取りをする。 ・帯活動として「アルファベットソング」を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士で“How are you?”とやり取りさせましょう!
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・Let's Try! デジタル教科書のチャンツを行う。 ・教師とALTによる単元に関係するやり取りを聞き、本時のめあてにつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTの生の声を活用し、児童の実態に合わせたスピードで行いましょう。
展 開	<p>【課題言語をインプット】</p> <p>Let's Listen</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容を予想してから音声を聞く。 ・教師やALTのモデルトークを繰り返し聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音声を聞かせる前に、着目する視点を与える。 ・語彙の確認を行いましょ。
	<p>【ICT活用で言語活動の準備】</p> <p>Let's Watch and Think</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書を視聴し、日本と海外の学校の違いについて気付く。 ・視聴して気付いたことを教師やALT、友達と確認する ・再度視聴し、理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴が目的にならないように、視聴前後に教師やALTと児童のやり取りを必ず行いましょう。
	<p>【コミュニケーション活動】</p> <p>やり取り/発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きなものやお気に入りのものを友達と伝え合う。 <p>例①:クイズ形式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お気に入りのものを紹介するクイズを友達と出し合う。 <p>例②:ペアワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアになり対話しながらお気に入りのものを伝え合う。 <p>例③:ミニプレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真や具体物を用いて、クラスみんなに自分のお気に入りのものを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス全体で児童の考えを共有する場面を設け、高学年における本格的な「発表」につなげましょう。 ・ペアを変えて繰り返し行うことで、相手意識を生むようにしましょう。
ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で触れた語彙を再度聞く・発話する。 ・めあての確認を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の活動を褒めましょう。
あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく元気にあいさつをする。 	

中学年外国語活動のヒント

【外国語活動におけるアクティビティ】意味や行う順番に注意！

- ・アクティビティを行う意味やねらいを考えましょう。何に重きを置くかが重要です。
- ・「聞く」であれば「ポインティングゲーム」のようなインプット系の活動を、児童が少しずつ発話が増えてきたら「ミッシングゲーム」のようなアウトプット系の活動をメインに行いましょう！

～児童の学習段階にあった活動を教師が設定することが大切です～

アクティビティリスト

【インプット型】 目的:音と意味を結び付けるために、十分な英語のインプットを聞いて理解する段階

ポインティングゲーム	読まれた単語の絵カードを素早く指さす。慣れてきたら、単語だけでなく短い文章(例:I like blue.)で聞き取らせる。
True or False	教師が見せている絵カードと、言っている単語が一致していれば“True!”(拍手する)、違えば“False!”(静かにする)などと反応する。
Listen and Draw	教師の指示(例:Draw a big sun.)を聞いて、手元の紙に絵を描いていく。
Simon Says	児童の理解度に応じて、中学年では“Simon says, draw a circle in the air.”など、より複雑な指示(動作+対象)にレベルアップさせる。

【インテイク型】 目的:たくさん聞いた英語を、自分の中で使える(アウトプット)形にするための段階

ジェスチャーゲーム	ペアの一方がジェスチャーをし、もう一方が“Do you like (soccer)?”と問いかけ、当たれば交代する。
メモリーゲーム	数枚のカードを並べて覚えさせ、裏返した後に特定の場所にあるカードが何かを英語で答える。
ミッシングゲームⅠ	黒板の絵カードを教師が1枚隠し、消えたものを当てる。

【アウトプット型】 目的:自分の伝えたいことを相手に伝えるために英語を使う段階

インタビュービンゴ	クラスメイトに“Do you like (blue)?”と聞き回り、“Yes”なら名前を書き込んでビンゴを目指す。
ミッシングゲームⅡ	グループに分かれ、児童同士で“What’s missing?”“It’s ~.”とやり取りする。

Tokyo Global Studio
Beginner (3・4年)



小学校外国語活動
ダウンロードサイト



小学校外国語活動研修
ガイドブック(文部科学省)



1 単元の組み立て方

小学校 高学年

コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。

指導のポイント	児童の姿
① つかむ 単元の目的 (Goal) と、それを「誰に・何のために」伝えるのかという相手意識・目的意識を明確にもつ。	
高学年では、目的や場面、状況に応じた自分事として語ることができる「伝える価値のあるゴール」を設定しましょう。	ゴールとなる活動 (例: 理想のスケジュール発表) の見通しを持ち、自分なら何を伝えたいか考えている。
② きづく 教師やALTの音声またはデジタル教科書の動画を通して、語彙・表現、語順 (言葉のきまり)、音声のルールに自ら気付く。	
高学年では「なんとなく聞く」のではなく、語順のルールを意識させ表現全体に着目させながら理解させましょう。	always等の頻度を表す語のニュアンスを推測したり、時刻の前のatや語順といった文のきまり、音声のリズムを発見したりしている。
③ あらわす 単元の目的を達成するために、自分の考えや気持ちを、既習の表現を組み合わせ実際に表現 (やり取り・発表) する。	
決まったフレーズを言うだけでなく、理由を付け加えたり、相手に質問を返したりすることで、自分の気持ちをしっかり伝え、対話を継続させましょう。	自分が本当に伝えたい内容を、写真やスライドにまとめて、相手の反応を見ながら話したり、やり取りをしたりしている。
④ ふりかえる 自分の学びのプロセスや友達の表現の良さを多角的に評価し、次の学習や他教科へ繋げる。	
「楽しかった」という感想を超え、「次はもっと～という言葉を使ってみたい」「友達の質問の仕方が上手だった」といった、具体的なコミュニケーション戦略や自己成長を振り返らせましょう。	友達の発表から良い表現を取り入れようとしたり、自分の学びを客観的に見つめ直したりしている。

1 単位時間の構成（例）

小学校
高学年

コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。

活動	児童の学習内容(例)	指導のポイント
あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをする。 ・日付や曜日について確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項も混ぜながらやり取りの幅を広げてみましょう!
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・学習单元につながる歌を歌う。 ・Small Talkを行う。 ・本時のめあてにつながるやり取りを行い、学習の見通しを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Small Talkについて ①教師とALT ②教師と児童全体 ③児童同士
展 開	<p>【課題言語に慣れ親しむミニアクティビティ】</p> <p>Let's Watch/Let's Listen</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書の動画や教師のモデルトークを繰り返し聞いて、課題言語に慣れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴が目的にならないように、視聴前後に教師やALTと児童のやり取りを必ず行いましょう。
	<p>【コミュニケーション活動】</p> <p>やり取り/発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元で学習する課題言語や、既習の表現を使いながら、自分の考えや気持ちを友達やALTと伝え合う。 <p>例①:ペアワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアになり自分の考えや気持ちを尋ねたり答え合ったりして伝え合う。 <p>例②:プレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成したポスターやタブレットで準備した写真スライドを使ってグループの友達やクラスの前で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行うための「目的・場面・状況」の設定をした上で言語活動を行うようにしましょう。 ・「中間指導」で児童にコミュニケーションの目的を思い出させることも大切です。
	<p>【書く活動】</p> <p>書きなぞる/書き写す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の中で使用した課題言語や既習表現について、例文をもとに書く。 ・書く活動に慣れ親しみながら、英文を書く時のルールを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に付属する単語集や教科書の例文をもとに無理なく書かせることで、慣れ親しませるようにしましょう。
ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを確認する。 ・振り返りシートに授業を振り返り、できたことや次に生かしたいことなどを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもとに話すことができたか振り返らせるようにしましょう。
あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをする。 	



学習段階に合わせてスタイルを変えましょう!



発表原稿ではなく、メモをもとに話させるようにしましょう!

高学年外国語科のヒント

【文字（指導）の扱い方】

小学校では、音声で十分に慣れ親しんだ語句や基本的な表現を「書きなぞる」と「書き写す」活動を行います。中学校の学習指導要領には「文字指導」という項目はありません。

そこで小学校で大切な指導の一つとして、単語を丸ごと書かせるのではなく、教師が「/d/ /o/ /g/」と一音ずつ区切る「音のヒント」を出してあげることです。“dog”という綴りを覚えていなくても、聞こえた音を文字として認識できれば小学校の指導としては十分です。年間を通して少しずつアルファベットの音に慣れる活動を行うことが重要です。

【受容語彙と発信語彙】

「聞いて理解できる語（受容語彙）」と「自ら使える語（発信語彙）」は別物として捉えましょう。学習指導要領でも、まずは聞いて概要を捉えることが重視されています。

言語習得は「インプット（聞く）→インテイク（自分の中に取り込む）→アウトプット（話す・書く）」という段階を経て進むため、すべての語を即座に話せる必要はありません。まずは豊かなインプットを通して「分かる言葉」の貯金を増やすことが、将来の自然な発信へと繋がる確かな土台となります。

【Small Talkとは】

Small Talkは、既習の表現を活用して互いの考えや気持ちを分かち合う、即興的な対話の場です。あらかじめ特定の言語材料を教師が指定せず、児童が「今持っている力」で伝え合おうとするプロセスを重視します。

活動を通して上手く言えなかったことや疑問に思った点は、事後に教師がフォローすることで、実感を伴う生きた学びへと繋がります。単なる定型文の練習ではなく、相手をよりよく知るための「本物のコミュニケーション」を目指しましょう。

【中間指導とは】

中間指導は、児童が自身の学びを振り返り、よりよい表現へと高めていく「自己調整」のために不可欠です。アイコンタクトや声の大きさといった「ふるまい」の指導に留まらず、言語面や内容面において「目的を達成するために十分か」を自問させる機会を作ります。

特に単元の6～7時では、教師が「目的を達成するために必要な要素は何か」「今の表現で相手に伝わるか」を問いかけ、児童がゴールに対する自分の立ち位置を確認できるようにします。

この「立ち止まって改善する時間」が、主体的に学びを深める姿へと繋がります。

Tokyo Global Studio
Elementary (5・6年)



小学校外国語
ダウンロードサイト



小学校外国語研修
ガイドブック(文部科学省)



江戸川区が目指す英語教育充実のための小中連携

小中連携

小学校での「好き」を中学校の「自信」へ。子どもたちの「わかった!」を積み重ね、安心して英語学習を続けられる環境を整える。

★小・中学校の教員が共通認識をもって 授業改善に取り組む

【テーマ例】

- Small Talkでつなく授業導入
- アクティビティでつなく言語活動
- 英語授業力向上におけた教員研修への参加
- 夏のワークショップ合同開催



小中合同研修 教材の共有

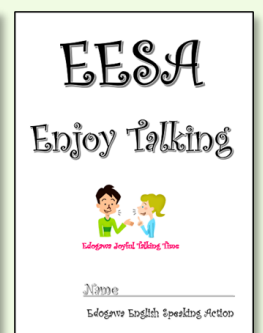
★各校種の学習内容や指導の重点を 理解する

【共有教材例】

- EESA Teachers' Handbookの活用
- EESA Enjoy Talking の活用

Microsoft Teams
チームコード
xt6grt3

※こちらからアクセスできます





★子供たちの実態を知る

【交流例】

- 小・中学校の授業動画を視聴
- 年1回程度の授業参観
- 出前授業



参考:英語動画教材
Tokyo Global Studio
東京都教育委員会

取組の共有 授業交流

★各校の取組を共有して参考にする

【例】

- English Day
- 毎日の英語活動
- 英語イベント



中学校 単元目標の設定例

中学校 第1学年

ポイント

基礎的・定型的なコミュニケーション

身近な内容に関して、既習の定型表現を使って意思疎通を図ることを重視します。

目標例・パフォーマンステスト例	活動内容
聞く はっきりと話される、自分や身近な人に関する短い発話から必要な情報を正確に抜き出す。	
【目標設定例】PROGRAM 9 ALTの海外旅行記を聞き取って、概要を理解し、質問を考 えることができる。 【パフォーマンステスト例】 ALTが教室で生徒たちに向かって海外旅行記を紹介する。 生徒たちはメモを取りながらそれを聞き、その海外旅行記 に関する質問を2文作成し、書く。	【生徒の活動例】 ・概要をつかむ。 ・教科書本文の学習を通して、過去形が用いられた表現や 海外旅行記に関する英語表現を理解し、慣れる。 ・教科書本文の内容に関する質問文を考え、書く。
話す（やり取り） 簡単な質問（Do you...? / Can you...?）への応答を、即興的に行う。	
【目標設定例】Warming Up, Power-Up 目的、場面、状況に応じた会話（簡単な注文、買い物、道 案内など）をすることができる。 【パフォーマンステスト例】 ハンバーガーショップ、買い物、学校案内場面でのやりとり をALTと実践する。	【生徒の活動例】 ・Q&A活動（答えるときはYes, Noで終わらずに、もう 一文足して話すように練習する。） ・ハンバーガーショップ、買い物、学校案内場面でのやりとり をペアで練習する。
話す（発表） 自分の好きなことや身近なトピックについて、短い文を繋げてスピーチする。	
【目標設定例】Our Project, PROGRAM 8 「あなたの知らない私」「この人を知っていますか」等につ いてジェスチャーやアイコンタクトをしながら聞き手に伝わ るように話すことができる。 【パフォーマンステスト例】 絵や動画の内容を説明するレポートを班で考え、発表する。	【生徒の活動例】 ・モデルスピーチを聞く→原稿作り→音読練習→リハーサル を通して、聞き手に伝わるように工夫しながら発表活動を する。 ・友達の発表を聞いたり、自分の発表を振り返ったりする。
読む 比較的簡単な語句で書かれた短い英文を読み、概要（誰が、何をなど）を理解する。	
【目標設定例】PROGRAM 6 ALTに内容が伝わるような音読をするために、本文内容を 読み取ることができる。 【パフォーマンステスト例】 ALTとペアで、人物やキャラクターについての対話文を音 読する。対話文はALTに複数用意してもらい、その中から 生徒が好きなものを選び、音読をする。	【生徒の活動例】 ・内容が伝わるような音読の仕方を学ぶ。 （間の取り方、強調、イントネーションなどを指導をする） ・教科書本文に読み方の工夫を書き込む（ペアやグルー プで交流し、表現の幅を増やす） ・ペアやグループで音読練習を行う。
書く 語と語の区切りなど英文の書き方に注意し、自分のことについて3文程度で書く。	
【目標設定例】PROGRAM 1 新しいALTの先生に自分のことを知ってもらうために、自 己紹介カードを書くことができる。 【パフォーマンステスト例】 自己紹介カードを書き、ALTに渡す。ALTはそれを読み、 追加で1つ英文の質問を書いて返す。それに対して生徒は さらに返事を書く。	【生徒の活動例】 ・教科書本文を正しく理解する。 （教科書本文がそのまま自己紹介の文である。） ・教科書本文を十分に音読させ、表現を身に付けさせる。 ・毎時間簡単なこと（自分の名前→性格→得意な科目 など）について、書く練習をする。

中学校 単元目標の設定例

中学校 第2学年

ポイント

情報の詳細化と「理由」の提示

文と文を繋ぐ接続詞や不定詞を使い、「情報量を増やす」ことが全ての領域で共通のポイントとなります。

目標例・パフォーマンステスト例

活動内容

聞く

日常的な話題について、話の前後関係や大まかな内容を把握する。

【目標設定例】PROGRAM 5, Power-Up 1, 5
登場人物がどこで何をしてどう思ったか、天気予報やアナウンスで必要な情報を聞き取り、その内容についてやりとりができる。

【パフォーマンステスト例】
聞いた内容を再現するために、ペアでロールプレイをする。

【生徒の活動例】

- ・先に提示されたリスニングポイント(who, where, when, what, why, how)の答えを聞き取って答える。
- ・聞いた内容をペアでロールプレイする。
- ・聞いた天気予報をもとにどこに行くかのやりとりをペアで考え、練習する。

話す(やり取り)

自分の考えを述べた後、理由(because)や目的(to...)など詳細情報を1つ以上付け加える。

【目標設定例】Warming Up, PROGRAM 1, 3
自分の考えを理由・目的・具体例を挙げてやりとりすることができる。

【パフォーマンステスト例】
ALTを遊びやイベントに誘ったり、地域のイベントで売りたいものについて自分の考えを述べたりする。

【生徒の活動例】

- ・QA活動(答えるときは、自分の考えとその理由について話すように練習する)
- ・誘う、断る際の表現や“I think ~”、“because ~”のやりとりをペアで練習する。

話す(発表)

既習の表現を活用し、構成を意識しながら身近な話題について話す。

【目標設定例】PROGRAM 5, Our Project
自分の職場体験、おすすめスポット、My heroについて、既習表現を用いて、聞き手に伝わるように発表することができる。

【パフォーマンステスト例】
ALTやクラスメートに伝わるように工夫しながら発表する。

【生徒の活動例】

- ・モデルスピーチを聞く→原稿作り→音読練習→リハーサルを通して、聞き手に伝わる発表をするための工夫を考えたり、取り入れたりしながら練習する。
- ・友達の発表を聞いて、自分の発表を振りかえる。

読む

接続詞(because, when等)に着目し、文と文の論理的なつながりを捉える。

【目標設定例】PROGRAM 6
生き物の特徴と人間の発明との関係を読み取り、「なぜその発明が生まれたのか」を説明したり、自然から学べることについて、自分の考えと理由を述べるができる。

【パフォーマンステスト例】
班で考えた他の事例についての記事をALTに読む。

【生徒の活動例】

- ・先に提示されたリーディングポイント(who, where, when, what, why, how)の答えを探しながら読む。
- ・意味のまとまりを意識して音読する。
- ・教科書に関連する他の事例について班で考える。

書く

相手に正しく伝わるよう、まとまりのある文章を書く。

【目標設定例】PROGRAM 4, 5
学習した表現(must / must not / ifなど)を用いて、自分の学校のルールとその理由を書くことができる。

【パフォーマンステスト例】
“Our School (Class) Rules”を分かりやすくまとめたポスターを書く。

【生徒の活動例】

- ・学習した表現を用いて、グループで“Our School (Class) Rules”ポスターを作成する。
- ・読み手に正しく伝えるための表現や工夫を考える。

中学校 単元目標の設定例

中学校 第3学年

ポイント

論理的な文章構成と「社会的な話題」
事実と自分の意見を区別し、「詳細に説明する」ことが目標です。
(関係代名詞や後置修飾の効果的な活用)

目標例・パフォーマンステスト例

活動内容

聞く

社会的な話題(環境問題、異文化等)について、話し手の意図を推測しながら聞く。

【目標設定例】PROGRAM 6

社会的な話題について話されるスピーチを聞いて、要点を捉えることができる。

【パフォーマンステスト例】

教科書で出てきたものとは異なる、社会的な話題についてALTがスピーチを行う。それを聞き取り、その要点を捉える。

【生徒の活動例】

- ・教科書本文に出てくる社会的な話題について聞き取り、要点を理解する。(リスニング前に最低限の情報を与える)
- ・聞き取ったことについて、交流する。
- ・「要点」と「概要」の違いを理解する。

話す(やり取り)

相手の発言を促したり、分からない場合に言い換えたりして、会話を継続・発展させる。

【目標設定例】Step 3, 4, PROGRAM 6

江戸川区の河川を綺麗にするためのアイデアを出し合うために、賛成・反対の立場を表明し、その理由も付け加えながら、話し合うことができる。

【パフォーマンステスト例】

ALT+生徒3人で英語でディスカッションを行う。ALTが司会を行い、1人につき2問ずつ質問をされるので、その質問に即興で答える。

【生徒の活動例】

- ・ディスカッションの流れや必要になる表現について学ぶ。
- ・教科書本文にある、単元目標達成のために必要になりそうな文にアンダーラインを引く。
- ・ALTやJTEがテーマ設定や質問をし、それに対してペアやグループで即興で話す練習をする。

話す(発表)

事実と意見を区別し、論理的な構成(序論・本論・結論)を意識してプレゼンする。

【目標設定例】PROGRAM 3

世界のレアスポーツについて、その特徴を整理し、プレゼンテーションソフトを用いながら、分かりやすく発表することができる。

【パフォーマンステスト例】

作成したスライドや画像・動画を用いながら、調べたレアスポーツについて発表する。

【生徒の活動例】

- ・教科書本文から、単元目標達成のために必要な文を見つけ、アンダーラインを引く。
- ・アンダーラインを引いた文をまとめ、パフォーマンステストで活用する準備をする。
- ・それをメモとして発表する練習をする。

読む

社会的・文化的な話題の文章を読んで、その概要と具体例を読み取る。

【目標設定例】PROGRAM 1

外国の食文化について書かれた英文の概要を読み取ることができる。

【パフォーマンステスト例】

ALTが書いた食文化に関する文を読み、リテリングを行う。

【生徒の活動例】

- ・教科書の概要となる文にアンダーラインを引く。
- ・それぞれの概要を書き出し、音読する。

書く

関係代名詞等を使いながら情報をより詳しく、一貫性を持って記述する。

【目標設定例】PROGRAM 5

筆者の主張を捉え、それに対して自分が考えたことや感じたことをその理由を交えて書くことができる。

【パフォーマンステスト例】

ALTが書いた社会的な話題に対する意見文を読み、それに対して自分の意見をまとまりのある英語で書く。

【生徒の活動例】

- ・要点理解の仕方について学ぶ。
- ・まとまりのある英文の書き方について学ぶ。
- ・Part 1~3の本文の学習において、それぞれ要点を捉える練習をする。
- ・捉えた要点に対して自分の考えを書く。

発展的活動例

第1学年 ALTの「ホームステイ・アドバイザー」

ALTの友人が、来月日本へホームステイに来ます。その友人は日本での生活習慣を知りたがっています。

ALTの状況:「箸が使えないけれど大丈夫かな?」「朝食は何を食べるのが普通なの?」と言っている。

生徒の役割:日本の一般的な生活を教え、不安を解消してあげる。

【明確な課題】「日本人は普通～をします(食べます)」と説明する。“Does he like...?”などの疑問文に対し、根拠を持って答える。「あなたの国ではどうですか?」と生活習慣の違いを確認する。

第2学年 ALTの「母国へのお土産プロデューサー」

ALTが帰国する際、家族に「日本らしいもの」を買いたいと思っています。しかし、それが「どこで作られているか」「なぜ有名か」という背景を知りたがっています。

ALTの状況:「扇子と箸、どっちがいいかな?」「これはどこで作られたものなの?」

生徒の役割:日本の伝統工芸品や現代文化(アニメグッズ等)について、背景知識を含めて紹介する。

【明確な課題】背景を受動態で説明する。なぜそれがお土産として最適かを比較表現で論理的に述べる。ALTの国の伝統的なお土産についても質問し、違いを話し合う。

第3学年 ALTと「SDGs・社会貢献」について語る

ALTが、地元のボランティア活動やチャリティイベントに参加しようとしています。どのような団体や活動があるのか、生徒に詳しく教えてほしいと頼んできました。

ALTの状況:「困っている人を助けたい。どんな活動がある?」「日本で有名な社会問題は何?」

生徒の役割:人や物を詳しく説明しながら、具体的な活動を提案する。

【明確な課題】関係代名詞や後置修飾を使って、対象を具体化して状況を説明する。自分がその活動をどう思うか、社会にとってなぜ必要かという意見を述べる。

帯活動のアイディア

Edogawa Joyful Talking Time

- ・Q&A・Q&A plus one
- ・Topic Chat: テーマに沿った話題を即興で話す
- ・即興スピーチ: グループでお題に沿った内容についてスピーチ

その他事例

- ・Picture Description: 絵を見て即興で話す
- ・3-minute Writing



指導案・動画教材・ALT活用

中学校英語
指導事例集



Tokyo Global
Studio Basic



MEXT Channel
TT動画



作成

Edogawa English Program 作成委員会

小岩第四中学校	校長	鈴木 訓文
松江第一中学校	校長	瀬戸 完一
鹿骨東小学校	校長	中田 伸代
瑞江第三中学校	副校長	望月 光代
松江第四中学校	主幹教諭	伊東 卓思
篠崎第三小学校	主幹教諭	煙山 有美
西小岩小学校	指導教諭	中村 啓子
小松川中学校	主任教諭	上野 翠湖
平井西小学校	主任教諭	芳賀 晶子

事務局

江戸川区教育委員会事務局

教育指導課

学力向上プロジェクト推進局長 倉田 克彦

指導主事 木山 朋江

学校教育支援センター

教科アドバイザー 佐藤 みち子

作成協力



発行日 令和8年3月31日



ともに、生きる。
江戸川区



江戸川区英語教育プログラム
Edogawa English Program